

保険 1 第 4 章生命保険の商品開発

4.1 生命保険商品の開発・改定・運営にあたっての基本的な考え方

4.2 商品開発プロセス

2018 生保 1 問題 1(2)

生命保険商品の開発・改定における「事後モニタリングと改善アクション」の目的について、簡潔に説明しなさい。また、事後モニタリングにおいて、ある商品の給付発生指数（予定発生率に対する実績発生率の割合）を確認したところ、予定発生率設定時の見通しより高いことが判明した。このとき、考えられる要因、保険料率変更以外の販売継続を目的とした改善アクション、および副作用について、それぞれ1つずつ挙げなさい。

解答

目的 商品開発時だけでなく、販売後のモニタリング結果に応じて機動的に販売施策や価格を調整していくPDCAサイクルによって、長期間にわたる商品事業の健全性をより強固にする。

考えられる要因

1. 公式解答: 想定外の高リスク集団の混入
2. 教科書事例: 価格設定時の保険給付見通しが、楽観的であったか増加トレンドを十分に想定できていなかった。

改善アクション

1. 公式解答: 引受査定基準の見直し
2. 教科書事例: 保険料率の見直し、または危険選択基準の見直し。

副作用

1. 公式解答: 販売量の低下
2. 教科書事例: 競合環境における競争力の低下を通じた、販売量の減少。

H30 生保1問題 1(2)

生命保険商品の開発・改定における「事後モニタリングと改善アクション」の目的について、簡潔に説明しなさい。また、事後モニタリングにおいて、ある商品の給付発生指数（予定発生率に対する実績発生率の割合）を確認したところ、予定発生率設定時の見通しより高いことが判明した。このとき、考えられる要因、保険料率変更以外の販売継続を目的とした改善アクション、および副作用について、それぞれ1つずつ挙げなさい。

解答

2019 生保1問題 1(2)

¹⁾ 保険会社向けの総合的な監督指針「Ⅱ－2－5 商品開発に係る内部管理態勢」について、次の①～⑤に適切な語句を記入しなさい。

Ⅱ－2－5 商品開発に係る内部管理態勢

Ⅱ－2－5－1 意義

保険商品の内容は「普通保険約款」及び「①」に、料率については「②」に記載されており、新商品の開発、商品内容の変更は、これらの変更を通じて行われている。

保険会社より商品の③申請が行われた場合、監督当局としては、契約内容が保険契約者等の保護に欠けるおそれがないか、不当な差別的取扱いをするものではないか、契約内容が公序良俗を害するものではないか等の保険業法に定める基準に適合するものであるか審査を行い、適当と認められたものについて、これを③することとしている。

近年、保険商品には、わが国における社会の構造的変化・経済活動の多様化等に伴い、国民の生活保障ニーズの高まり、新たなリスクの発生など、保険契約者ニーズに対応すべく多様化が求められている。

こうしたニーズに応え、保険会社が商品開発を行うにあたっては、保険業法等の法令等を踏まえ、④に基づき、リスク面、財務面、⑤、法制面等あらゆる観点から検討する内部管理態勢の整備が求められているところである。

解答

① 事業方法書② 保険料及び責任準備金の算出方法書③ 認可④ 自己責任原則⑤ 募集面

4.3 生命保険商品の開発・事業運営の構成要素（商品設計）

4.4 生命保険商品の開発・事業運営の構成要素（商品設計以外）

1) * WB では「その他」 1. 監督指針